奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和六年八月度　入賞句一覧

投句数　七百三十五句

一般の部

大西　誠一　選

特選

傘折れて笑うしかない驟雨かな　　大垣市　川瀬　恭子

まずこの句を見た時、そうだなと感心した。驟雨（しゅうう）とはにわか雨のことである。私なら折れた傘を持ち、雨が小やみになるまで待つたであろう。作者は折れた傘を持って、次の目的に向かって頑張られたのであろうか？

天の川恋の物書きシェイクスピア　　静岡県浜松市　関根　由雄

東洋の恋と西洋の恋を題材に、伸び伸びと表現した秀句である。天の川からは七夕伝説を思い浮かべる。彦星（鷲座アルタイル）と織姫（琴座のベガ）の悲恋は子供の頃に教えられた。一方シェイクスピアの戯曲ロミオとジュリエットは西洋を代表する作品である。

カタコトと昭和のミシン立葵　　大垣市　岡田　あや子

十年くらい前になるが、私も「骨太の母の血筋や立葵」の句を詠んだ。若い頃は「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」と言われるように、美しさの代表として花を鑑賞したものだが、最近は立葵や凌霄花など、味のある花を句の題材として大切にしている。古くなった昭和のミシンを、カタコトと踏まれている作者の姿が目に浮かぶ。季語の「立葵」が大変すばらしい。

秀逸

突き出され醤油地獄の心太　　大垣市　宮上　美濃留

老いてなほ夢を抱かん雲の峰　　大垣市　浅野　翔泉

妻と子のわだかまり解け心太　　大垣市　傍島　隆

思ひ出の充ちしトランク引く晩夏　　大垣市　小林　研

潮の香と風を掬ひて夏帽子　　大垣市　宮脇　和子

ひまわりを俳句絵にする人数多　　大垣市　説田　祐子

しをれても色水遊び牽牛花　　大垣市　川瀬　恭子

開きまた閉じる扇子や棋士の癖　　揖斐郡大野町　横山　道男

丸漬けの茄子あををと玻璃小鉢　　愛知県豊田市　城山　悠水

青空は老いのさみしさ遠郭公　　長野県下伊那郡　長沼　まさし

入選

蟬時雨子らの唱ふる恩徳讃
炎天や通る人無き四十度
羅の人と行き交ふ二年坂
地を鳴らす森の主や牛蛙
夏座敷見越す商家の五葉松
城崎は浴衣が似合う下駄の音
ひまわりとえがおあふれるたんじょうび
登り着き汗拭く手には朱印帳
短夜や仮眠分け合ふケアハウス
四万十川渡りて沿うて夏の旅
古書店の夏の扉の軋む音
氷菓子の当たりを探る青き舌
海の家仕舞ひて空の広くなり
蝉の声辞表に太き明朝体
噺家の江戸弁の粋涼夜かな

選者吟

秋の浜白子に貝を拾ひけり　誠一

一般の部

大垣市　和田　栄子
三重県四日市市　松岡　永樹
岐阜市　田中　淳子
各務原市　桑原　緑
岐阜市　花川　和久
京都府宇治市　八田　弥須子
愛知県春日井市　髙下　実江子
大垣市　岡田　博志
大垣市　高津　喜久子
兵庫県西宮市　小西　寒心
三重県鈴鹿市　松井　政典
養老郡養老町　大橋　与志
安八郡安八町　里山　みのり
滋賀県大津市　近江　菫花
神奈川県横浜市　龍野　ひろし